



2013

7

vol.453



夏の日差しのお恩恵を受けて

(じゃがいもの花言葉は恩恵！)

今金男爵の花咲き誇る！

今金町軟白長ネギ振興会 30周年!

今金町軟白長ネギ振興会は今年で30周年を迎えました。現在は15戸で作付けしており、今や今金の軟白長ネギは道内で1、2を争う軟白長ネギと評価をいただいています。30周年を記念して、現会長である水口仁さん、初代会長である水野勲さんにお話をいただきました。

今金町軟白長ネギ振興会 5代目会長 水口仁さん

MTハウスが完成した当初、振興会でネギの苗の供給量に余裕があり、それならばと平成2年に名乗りを上げたのが、私と飯谷勉さん、牧野正一さんの3人でした。当時は水稲・畑作で生計を立てて



おり、土地も借地が多かったため将来的に規模拡大や、大型機械の購入を考えるよりは、今ある土地にハウスを建てた方が将来的に明るいと考え、家族の反対を押し切り、土地を売る覚悟でネギの作付を始めました。これが私のネギ人生の始まりでした。私自身ネギを作って23年目ですが、軟白長ネギだけでなく施設野菜全般に言えることです。難しさもあるけど面白みがあるので魅力です。技術だけでなく、日頃の管理も重要です。今の軟白長ネギ振興会は新規生産者の希望がなく、平均年齢も上がっているため、MTハウスの管理・運営が心配ではありません。産地として確立していて、市場も開拓できているのだから、新規生産者に続いてもらい産地として長生きしてほしいと考えています。会長を拝名してから14年が経ちますが、これからの若い世代には情報交換・技術の導入については貪欲になってもらい、軟白長ネギ栽培のスペシャリストになってくれることに期待しています。栽培していく中で、連作障害に遭いながらも栽培し続けてこれたのはネギが魅力のある作物であつたし、蒸気消毒機という連作障害への対策も見つかったからです。そして、平成20年度には単価も高かったということもありましたが、初の2億円に到達するこ

振興会の歩み

- 昭和59年 転作経営安定特別事業により金原地区7戸で「軟白長ネギ」栽培開始
- 61年 八東南原地区3戸加入
- 62年 八束中央地区4戸加入
- 平成元年 水田農業確立対策推進事業により育苗MTハウス完成
- 2年 1億達成祝賀会開催
神丘・金原・八束地区3戸加入
- 5年 北海道南西沖地震にてMTハウス倒壊
北檜山地区1戸加入
- 6年 設立10周年記念祝賀会開催
根腐れ萎凋病の症状について道南農業試験場へ原因解明と対策を依頼
- 7年 道南農業試験場により「ネギプロジェクトチーム」結成、根腐れ萎凋病の原因解明と対策へ取り組み
- 10年 土壌還元殺菌法の導入
- 11年 北桧山地区1戸加入
- 12年 北桧山地区1戸加入

とができました。軟白長ネギの産地は、北海道内でも衰退が目立っています。今まで勉強させてもらっていた有名産地が下火となっていて、今金が中心となり「軟白長ネギをもっと普及させたい」という事が今後の目標であり、次の世代に引き継ぐ振興会の礎を築いていきたいと考えております。

今金町軟白長ネギ振興会 初代会長 水野勲さん

振興会設立以前は水稻を中心に経営しており、金原宮前で共同の田植えを行っていました。しかし、休耕の始まりにより、作付が減少し生活が厳しくなるという危機感が理由で何か違う物を作ってい



かなければと模索した結果、軟白長ネギに辿り着きました。その背景には道の補助事業や施設園芸は初期投資が少なく済むなどの理由がありました。当初は旭川が有力産地で、旭川ビニールから資材の購入と共に技術指導もおこなって頂きました。その後、八東南原、八束中央からも会員が加わり徐々に仲間が増えると共に、共同の育苗ハウス（MTハウス）を建設するに至りました。

スタート時は1人2〜300坪から始め、収量も1t／100坪程度でしたが今では平均面積1500坪、収量は2.5t／100坪と大きく成績を上げています。栽培に関しては30年も作り続けているだけに、それぞれが独自の栽培方法を持ち合わせています。それでも個選共販が続いているのは各々が良い物を作り続けているからです。生産者の年齢が上がっており、後継者不足の問題や、経営形態の多様化から部会行事への参加が少なくなっており残念な部分もあります。

今後の部会への願いとしては、1戸でも多くの仲間が増えて欲しいと言うことです。そして、他の施設野菜に負けないうよう、これからも軟白長ネギに誇りをもって作り続けます。

- 15年 蒸気土壌消毒機の導入育苗方式をポット育苗とし、育苗施設をMTハウスに集約
- 18年 設立20周年記念祝賀会開催
- 19年 大型台風によるハウスへの被害
- 20年 販売額2億円達成祝賀会開催
- 22年 エコファーマー認定
- 25年 GAPの導入
- 25年 設立30周年記念旅行

軟白長ネギ振興会 青森へ

今金町軟白長ネギ振興会は6月24日、2日間の日程で30周年を記念して青森に旅行に行きました。当日は12戸18人の会員が参加し、30周年ということで夫婦で仲良く参加する方も。旅行当日は天候に恵まれ、まるで歓迎してくれてい

るかのような絶好の旅行日和でした。皆様日頃の仕事の疲れを忘れ、楽しんでいました。



▲宿泊したホテル前での記念撮影

種子馬鈴薯防疫補助員 永年勤務者感謝状伝達式

5月23日、種子馬鈴薯防疫補助員永年勤務者感謝状伝達式で中野貞雄さん他6名が感謝状を頂きました。

この感謝状は防疫補助員を10年以上務めた者に農林水産局長から、20年以上務めた者には農林水産大臣から送られるものです。種子馬鈴薯生産に多大なるご尽力を頂いている事に改めて感謝いたします。



▲感謝状を受け取る中野貞雄さん

小かぶ初出荷

6月6日、小かぶの出荷が始まりました。春先の天候で生育が心配されていましたが、5月か

らの天候回復により、順調に生育しています。

ほこほこ大地の小かぶは、厳しく選別しているため、品質が非常に良く消費者の方々からも大好評です。皆様も一度ほこほこ大地の小かぶを食べてみてはいかがでしょうか？



▲小かぶ市場の競り風景

ミニトマト 現地視察

ミニトマト振興会は6月28日、町内現地研修を開催しました。

24戸40名の生産者が参加し、研修会に講師として株式会社ジャットより荒井幹博氏、ホクレン農業協同組合連合会より有村利治技監の2名を招き二本仕立てによる栽培講習会や摘房処理について講習を頂きました。

摘房処理は収穫ピークを現在の

8月中旬の出荷から9月にずらす技術で、振興会でも試験的に実施しております。平均単価が上昇し、所得向上が期待されます。



▲講習を熱心に受ける生産者たち

JA今金町役員視察研修

6月10日より3日間の日程でJA今金町役員の道外視察が実施されました。

加工用米の取引先であるニチレイフーズ船橋工場、馬鈴薯の取引先のヤヨイ食品清水工場においてはそれぞれの生産ラインを視察し、「安全・安心」への取組として様々な衛生管理、品質管理が行われている事を研修しました。最後の視察先であるホク

レン販売本部においては、農産物や加工食品、冷凍食品の道外販売についての状況や販促イベント、今後の課題等について説明を受け、JA役員との意見交換となりました。その中では特に産地として、共販数量の拡大のため全道の結集による安定供給が産地の信頼を高めること、将来の需要を見据えた地域生産戦略構築の必要性や、異品種、異物の混入、残留農薬問題の発生等は大きな産地負担を招くとともに、破袋乱袋、誤出荷も問題視されています。「あんしんネット」の厳格な取組が必要であることを改めて確認しました。



▲生産ラインを見学する前の役員

青年部

青年会議 花壇整備

農協青年部と商工会青年部で構成されている組織、今金町青年会議は6月8日、今金小学校前の花壇整備を行いました。

当日は13人も有志が駆けつけ、天候もよく、作業は順調に進み、鮮やかな花で国道沿いを彩りました。

今金町青年会議はその活動を通して、様々な方法で町の活性化を図ることに奮闘中です。これからも農業だけでなく色々な側面で町を盛り上げていくことに期待しましょう！



▲彩り豊かな花の前で記念撮影

女性部

青年部 部員歓迎迎会

青年部は6月11日、部員の歓迎迎会を開催しました。当日は33名の仲間が参加し、新たに加入する部員に祝福を、勇退する部員には功績を称え、夜遅くまで大変な賑わいとなりました。新入部員は田中浩司さん（文夫）、田中一也さん（勝博）、野田直樹さん（勝則）の3名。そして安藤拓也さん、諸戸邦吉さんの2名が勇退することとなりました。青年部は現在66名となっており、これからの地域農業の担い手として若い力で盛り上げてくれることを期待しましょう！

JA今金町青年部・女性部は6月15日、TPPの問題点を広く知ってもらおうと、街頭宣伝活動を行いました。全国のJA青年部・女性部が一斉に活動し、「一緒にTPPについて考えましょう」と、消費者にも身近な問題であることを訴えました。

女性部 道内視察研修

女性部は6月27日、テーブルマナーを真狩村にあるレストランマッカリーナにて研修を受けました。マッカリーナでは、地場産の野菜を使って料理を提供しており、鮮やかな盛り付けに皆さん目を奪われていました。肝心のマナーは、食事が始まった頃は普段使い慣れていないナイフやフォークだったため音を立てて食べてしまうシーンも見られました。が、マナーについて熱心に学び、礼儀正しく静かに食事が行われました。また一段と淑女に磨きがかかったのではないのでしょうか。

もぎたて市 開市

女性部は6月3日、もぎたて市をAコープ今金店内で開市しました。もぎたて市をより一層充実させようと女性部は「ホクレン くるの杜」「道の駅花ロードえにわ」を訪れ、他のもぎたて市の包装の仕方・ラベルの付け方・FGを自分たちのもぎたて市とどう違つか比較して研修しました。

名前の通り、毎朝もぎたての新鮮な野菜を出荷しており、旬の野菜を味わうことができますので、是非ご利用ください！

TPP全国一斉街宣活動



▲丹精込めて作られたもぎたて野菜

今後の農作物管理

水稲

◎生育は7日早い(7/1現在)
・いつもと違うぞ!

これから冷害危険期を経て、止葉、穂孕、出穂・開花・受精、登熟へと生育は大きく変化します。病害虫防除を含めて生育時期に応じた適切な管理に努めましょう。

・冷害危険期の深水灌漑徹底
・今年(成苗で)7月2半旬頃(5〜10日)から始まる見込。天候が悪くなつてからの急激な入水は、水温低下や用水量不足などが生じるため、前歴期間からの入水を(水深5〜10cmに)。冷害危険期は10〜最大20cmに、水温で幼穂を守る事が肝要、日中の止水徹底。

・冷害危険期終了後から出穂までの水管理
・止葉が展開し、葉耳間長+5cmの茎が8割に達したら危険期終了です。速やかに中干しを行います。出穂が始まったら浅水に戻し開花・受精を促す。
・発生予察の励行で的確な病害虫防除を!

いもち病・すでにBLASTAM情報が出され、いもち病の発生し易い状況ですので早期発見と防除に努めましょう。特に葉色が濃く風通しの悪いほ場などでの発生に注意。

カメムシ類・水稲の出穂とともに小麦・えん麦ほ場や雑草地から水田に移ってきます。すくい取りでカメムシの発生を確認し、出穂期以降の防除に備えましょう。

豆類

大豆(早2日)
小豆(早2日)



・最終中耕は開花前までに終わらせましょう。開花期に中耕・除草を行うと、根の切断により水分の一时的な欠乏を生じ、落花・落莢の原因となります。C16・排水不良地は茎疫病が発生していかないか注意して観察しましょう。過去に発生したほ場は特に要注意です。



しっかり観察して蔓延を防ぎましょう。
・アブラムシに注意!高密度で吸汁加害されたものは、生育抑制の原因になります。播種時に種子塗沫剤を施していないほ場(種子塗沫しているのと抑制できる)はよく観察し、防除に努めましょう。
・ほ場に野良生えいもを残していませんか? 野良生えいもが目立つほ場がみられます。野良生えいもは雑草化したり、病気の発生源にもなります。種子馬鈴しよを作付けしている・していないに関わらず、徹底的に野良生えいもを除去しましょう。

馬鈴薯

露地(±0日)
早出し(±0日)



・疫病は20℃前後の多湿条件で発生します。発生前の予防防除が効果的です。もし、疫病の発生が見られた場合は、ほ場の蔓延を防ぐためにも雨前に防除を行います。

・晴天で気温も高く推移した場合、アブラムシの発生も予想されます。発生を確認した場合は、早めに防除を行います。
・軟腐病は倒伏や損傷により被害が多発するので、注意して防除を行います。
馬鈴しよ(早出し)
・あと1か月ほどで収穫時期を迎えます。早出し馬鈴しよの調査結果をもとに収穫の計画を立てましょう。

ミニトマト



・脇芽の整理
大きくなりすぎてからの整理は樹を傷めたり、大きな傷口を作ることになるので、10〜15cm程度の小さいうちにを行います。

・温度、肥培管理
日中27℃、夕方〜夜15℃、夜〜朝方12℃程度とし、昼夜の寒暖差を付けて管理します。
3段階房開花〜着果期は、樹に最も負担のかかる時期です。樹勢を見ながら追肥を行います。

・病害虫防除
着果後の花弁や枯れて黄変した下位葉には、灰色かび病が付きやすくなり

ます。こまめな換気と防除を行います。よう。アザミウマ類やオオタバコガ幼虫の発生時期です。果実を食害しますので、ほ場観察に努め、適正に防除しましょう。

秋まき小麦

±0日



・開花も終わり、子実の充実時期に入っています。
・7/12に穂水分調査を実施し、成熟期を判定する予定です。収穫時期については今後、JA今金町からのFAX情報を参考にしてください。

・本年は成熟にバラツキが予想されます。注意深くほ場を観察し、適期刈りに努めて良質麦を目指しましょう。

ブロッコリー

花蕾腐敗病対策

栽培密度を広く確保します。

・基肥を控え、追肥も基準量(硫酸20kg/10a)を守りましょう。花蕾が見え始めてから2週間以内で収穫となるため、薬剤の使用時期を確認し生育状況に合わせた薬剤を選択しましょう。

てんさい

早1日



・ヨトウガ(ヨトウムシ)の発生に注意!
幼虫の若齢期に防除効果が高いので、ほ場をよく観察し、食害の程度を確認し防除の必要性を検討しましょう。要防除水準・被害株率50%以上で即時防除・褐斑病に気をつけましょう。本病は高温・多湿条件にて発生が広がります。ほ場をよく観察して防除しましょう。

大根・小かぶ



・軟腐病対策
高温、過湿条件で、軟腐病の発生が助長されます。
エコメイトは、多湿条件で散布すると微生物の定着が促進され、効果を発揮しやすくなりますので、だいこんでは降雨後、こかぶではかん水後、散布するようにしましょう。

立茎アスパラガス

立茎

立茎移行中はかん水は控えめとし、立茎開始から1ヶ月半程度で茎が硬く仕上がれば立茎が完成です。

・収穫通路やハウスタ井に届いた茎葉を刈り、地際から上70cmの下枝を整理し、控えていたかん水量を増やすことで、鱗芽を刺激し、夏芽の生育を促しましょう。

・病害虫防除
灰色かび病の発生時期に注意し、茎葉の整理、換気、防除によりまん延を防ぎましょう。アザミウマ類、ヨトウムシ類の発生時期ですので、発生状況を確認し、適正に防除しましょう。

畜産

牧草早1日
飼コーン早2日



・夏場の飼養管理
飼槽を清潔に、新鮮なエサを1日2回以上給与し、掃き寄せ回数を増やすなど乾物摂取量の確保に努めましょう。
乳成分・生菌・体細胞数の変化から、衛生対策や飼料の内容を改善しましょう。

・初生子牛の下痢対策のため、分娩前の牛房内の消毒に心がけるとともに、畜舎内の暑熱対策を行います。

・2番草の刈取り
チモシー主体草地で1番草刈取り後55日、オーチャードグラス主体草地で45日を目標として2番草を刈取りましょう。

・繁殖管理について
暑熱ストレスは繁殖性を低下させる大きな要因なので、暑熱対策を徹底しましょう。

・農作業の繁忙期であることから発情の見逃しが懸念されます。発情行動のしやすい環境づくりを行い、観察回数を増やして、確実な発情発見に努めましょう。

・ロールベールの保管、収納
収穫時期や草種、マメ科率等の内容を表示し、種類別に積み分けて収納しましょう。

Next GENERATION

新時代の担い手たち

連載

田代地区 須藤 孝政さん 喜代子さん

《プロフィール》

須藤 孝政(すどう たかまさ) 36歳
北海道檜山北高等学校卒(就農10年目)

須藤 喜代子(すどう きよこ) 33歳
北海道札幌市女子短大卒(就農3年目)

《経営作物》 水稻・大根・大豆・小豆・馬鈴薯

《家族構成》 須藤 政貴(子)、リリこ(子)、来輝(子)、
光政(父)、優子(母)、



今金町を担う若者達を紹介するコーナー。第19回目は田代地区の須藤 孝政さん、喜代子さん夫妻をご紹介します。

孝政さんは今年から自ら経営を営む身となりました。これから大根の収穫も始まり、孝政さんは気合十分でした。お二人の趣味は野球観戦で、プロ野球の観戦はもちろんのこと、政貴くんが野球少年団に所属しており、政貴くんの応援にいくことも。

夫婦二人三脚で農業を営む須藤さん夫妻に、今回は色々なお話を伺いました！

《お二人の出会い》

(喜代子) 私も旦那も今金町出身で、幼馴染だったんです。私
が今金に戻ってきたときに、友達経由で再会し、お
互い懐かしさに引かれて、お付き合いすることにな
りました。

《就農のきっかけは？》

(孝 政) 小さい頃から両親が農業に携わる姿を見ており、私
は長男なので、大きくなったら父の後を継いで農業
を自分自身で営んでみたいという気持ちがあり、就
農しようと決めました。

(喜代子)

私は旦那と結婚をして、子供が小さい頃は手伝うこ
とがなかなかできませんでしたが、子供が皆大きく
なってから農業に従事するようになりました。

《農業をしていて感じることはありますか？》

(孝 政) 秋口の収穫が楽しみです。春先の播種作業から始
まり、今まで手塩にかけて育ててきた作物が実際に
実となって収穫できるというのはやはりうれしいこ
とですね。作物の値段や気候が安定しないのは農業
の難しいところですね。

(喜代子)

自然のもとでの仕事なので、清々しい気分になりま
すね。家族にもこの仕事に携わらせてもらい、感謝
しています。

《今の生活はどうですか？》

(喜代子) 子育ても順調に進み、家族団欒な生活です。

《今後はどうしていきたいですか？》

(孝 政) これからも安定した収入を維持するための、規模拡
大、特に畑作を増やしていきたいと考えています。

(喜代子) これからも旦那を陰から支え、家族団欒の家庭のま
ま、子供たちの成長を見守ってまいります。

農作業で多忙な時期でしたが、終始笑顔のまま夫婦で取材
にご協力していただきありがとうございました。家族で支え
あって農業に取り組み、これからの農業への意気込みを強く
感じました。これからも目標に向かって家族の皆さんと一緒
に頑張ってください！

毒物又は劇物農薬の購入について

日頃より生産資材課をご利用いただきありがとうございます。毒物又は劇物農薬を購入される方へ注意事項がございます。毒物及び劇物取締法に基づき、毒劇物の購入時には印鑑が必要となっております。(指印は認められておりません) 毒劇物農薬を購入される場合は、必ず印鑑を持参のうえ、伝票にフルネームを書いて押印していただきますので、ご協力をお願いいたします。

【毒物及び劇物取締法（抜粋）】

(毒物又は劇物の譲渡手続)

第十四条 毒物劇物営業者は、毒物又は劇物を他の毒物劇物営業者に販売し、又は授与したときは、その都度、次に掲げる事項を書面に記載しておかなければならない。

- 一 毒物又は劇物の名称及び数量
 - 二 販売又は授与の年月日
 - 三 譲受人の氏名、職業及び住所（法人にあつては、その名称及び主たる事務所の所在地）
- 2 毒物劇物営業者は、譲受人から前項各号に掲げる事項を記載し、厚生労働省令で定めるところにより作成した書面の提出を受けなければ、毒物又は劇物を毒物劇物営業者以外の者に販売し、又は授与してはならない。

【毒物及び劇物取締法施行規則（抜粋）】

(毒物又は劇物の譲渡手続に係る書面)

第十二条の二 法第十四条第二項の規定により作成する書面は、譲受人が押印した書面とする。



理事会報告

第5回

(平成25年5月13日)

〔報告事項〕

1. 農業委員会総会報告について
2. 第二委員会の報告について
3. 内部審査結果報告について
4. 第1四半期監査の実施について
5. 組合員の加入・脱退状況について
6. 第1四半期部門別実績対比について
7. 中山間地域等直接支払交付金について

8. 町担い手対策事業について
9. 町・農協振興補助事業について
10. 預託牛の入牧について
11. 広域連通常総会の報告について
12. 役員道外視察研修について
13. 平成24年度JAバンク基本方針に基づきJA財務モニタリング及び基準体制整備モニタリングの報告について

〔議決事項〕

- 第1号 平成25年度コンプライアンスプログラムの策定について
- 第2号 平成25年産米出荷契約金の立替払いについて
- 第3号 理事者への貸付の承認について
- 第4号 理事者の保証債務の承認について

第6回

(平成25年6月26日)

〔報告事項〕

1. 農業委員会総会報告について
2. 第二委員会の報告について
3. JA全国監査機構による一般総合監査の実施について
4. 上半期棚卸監査の実施について
5. 階層区分の見直しについて
6. 種子馬鈴薯防疫検査日程について
7. 農畜産物の販売状況及び生育状況について
8. 今金町畜産共進会について
9. 負債の整理状況について

〔議決事項〕

- 第1号 第1四半期監査に対する回答(案)について
- 第2号 平成24年産馬鈴薯本精算について
- 第3号 平成25年産早出馬鈴薯の概算払いについて
- 第4号 平成25年産農地評価見直し5千万円超の信用供与等の承認について
- 第5号 5千万円超の信用供与等の承認について
- 第6号 5千万円超の信用供与等の承認について
- 第7号 理事者への貸付承認について
- 第8号 同一人に対する信用供与等の最高限度額について
- 第9号 地区組合長会海外視察研修に伴う旅費(日当)支給について
- 第10号 会議体管理規程の制定について
- 第11号 自動車通勤管理規程の制定について
- 第12号 規程類管理規程の改正について

J A広報いまかね453号 平成25年7月1日発行

◇発行 今金町農業協同組合 ◇住所 〒049-4397 北海道瀬棚郡今金町字今金 141 番地

◇電話 0137-82-0212(直通) FAX 0137-82-0854 ◇編集 営農部 農業経営課 ◇印刷 今金はやし印刷社